

# 図書館だより

## 10月の主な受け入れ図書

<p>① 本田一成著『チェーンストアのパートタイマー』白桃書房 (ix+213頁, A5判) パートタイマーの質的・量的な基幹化の実態と労使関係の動向を、チェーンストア業界を題材に深く掘り下げています。非正規労働者の比率の増大が、パートの基幹化や労使関係にどのような影響を及ぼしているのか。著者は、アンケート調査と恩賜ゆずりの事例調査に基づき労働市場の予測に不可欠な課題に取り組んでいる。</p>	<p>④ 平沼高他編著『熟練工養成の国際比較』ミネルヴァ書房 (xi+285頁, A5判) 英米独仏における製造業の熟練工養成の実情を国際比較し、徒弟制度を再評価するとともに、企業内教育をキャリア形成の見地から問い直している。さらに、青年の経済的・社会的自立のため、政府、労使等が支援の諸制度を確立すべきであると、その中心に徒弟制度を位置づけている。徒弟制度は蘇生するであろうか。</p>
<p>② 古郡頼子編著『非典型労働と社会保障』中央大学出版部 (v+212頁, A5判) 本書は、労働市場の構造変化という社会経済環境の中で、非典型労働者の労働市場、家庭、企業における実態を把握し、非典型労働者の社会保障のあり方を模索している。労働者保護の統計、典型・非典型区分を越えた公平・効率的な社会保障制度の探求は、格差拡大、ワーキングプア増大の中、喫緊の課題となっている。</p>	<p>⑤ 染谷倭子編著『福祉労働とキャリア形成』ミネルヴァ書房 (iv+248頁, A5判) 本書は、介護サービスの質を決定づける、従事者の専門教育、能力開発、人材確保等と幅広く論じている。高齢社会をいかに乗り切るかは、現代日本の課題の1つであるが、きめ細やかな対応が可能な十分な量の介護労働力の確保は、従事者の生きがい保持とともに、最晩年の我々の人生に影響を与える致命的課題である。</p>
<p>③ 高田敏他編『ホームレス研究』信山社 (ix+225頁, A5判) 釜ヶ崎を中心とする大阪のホームレスや日雇労働者の生活、健康、労働の実態を学際的に明らかにしている。居住福祉は基本的な人権であるが、日本ではなぜかその実現が阻まれている。本書は実態調査に基づき対策を提言しているが、故郷と擁護者の喪失者であるホームレスの社会的排除の絶滅に向けた試みともなっている。</p>	<p>⑥ 和田勝編著『介護保険制度の政策過程』東洋経済新報社 (xv+589頁, A5判) 社会保障の一環として公的介護保険制度を実施している日・独・ルクセンブルクを対象に、立法の経緯、制度の仕組み、制度実施後の問題点、等について比較研究、各国の介護保険制度も詳細に報告している。総頁589頁におよぶ大著だが、参考資料が二百頁余を占めており、資料集としての意義が濃い図書となっている。</p>
<p>⑦ 孫田良平監修『賃金の本質と人事革新』三修社 (303頁, A5判) ⑧ 全国民主主義教育研究会編『格差社会と若者の未来』同時代社 (242頁, B6判) ⑨ 小室淑恵著『ワークライフバランス』日本能率協会マネジメントセンター (267頁, A5判) ⑩ パーバ・エーレンライク著『捨てられるホワイトカラー』東洋経済新報社 (313頁, A5判) ⑪ 水町勇一郎著『労働法』有斐閣 (xv+445頁, A5判)</p>	<p>⑫ 伊丹敬之著『経営を見る眼』東洋経済新報社 (269頁, B6判) ⑬ 林文夫編『経済停滞の原因と制度』勁草書房 (viii+348頁, A5判) ⑭ 大谷拓朗他著『偽装請負』旬報社 (155頁, B6判) ⑮ 早川和男他編『ホームレス・強制立退きと居住福祉』信山社 (xv+206頁, B6判) ⑯ 小田晋修監修『産業メンタルヘルス白書 2007年版』社会経済生産性本部メンタルヘルス研究所 (210頁, A4判)</p>

(新着受け入れ図書の詳細は、当機構ホームページの「労働図書館」内「新着図書情報」をご覧ください)

### 今月の耳より情報

プロジェクト研究シリーズ紹介の最終回は、No.3「これからの雇用戦略」です。「誰もが輝き活力あふれる社会を目指して」という魅力あふれる副題がついていきます。「勝ち組・負け組」「ワーキングプア」「格差」というようなすさんだ言葉があふれる社会の中で、ほんわかとした温まるものがあります。本書もまた、これまでに紹介した図書と同じく、二〇〇〇円という値段的に、より沢山の内容となつていきます。その内容も、全員参画型社会、就業促進、就業の質、キャリアアップ、ワークライフバランス、均衡処遇、政策評価そして各国の雇用戦略というようにバラエティーも豊富な一冊です。企業は、「失われた十年」の間に、必要に迫られ、短期的な視点から雇用の最適ポートフォリオを模索、試行錯誤を重ねてきました。個々の企業が現状で最適と思つて採用した雇用形態は、日本全国のすべての企業を集計してみたとき、パート等の非正規雇用と派遣・請負等の非雇用労働者の拡大という、良好な雇用機会の減少という姿として現れました。その結果、若年労働者のみでなく、中高年労働者においても不安定雇用が増大し、生活保護費以下で働く労働者も多数を数えます。将来に夢をもてない労働者が増えてしまったのです。本書は、そのような状況の中で、誰もが労働生活の未来に夢をもつことがいかに輝き、自分の労働能力がいかにたくましく発揮されることによつて活力あふれる社会となる戦略を示しています。このような研究こそ、当機構の独壇場といえる大学や民間シンクタンクではできない未来を信ずる本書を是非一読ください。

### 図書館長のつぶやき

図書館での多様な問い合わせに対応するためには、色々な能力が必要とされる。図書や雑誌などの資料を必要とする利用者へ紹介すること、あるいは、調べ物・探し物のお手伝い、がレファレンス・サービスの定義であること、それらについて十分な知識を持ち合わせていること、資料の探し方のノウハウが優れていること、が最低限必要とされる。さらに、関係機関や当該分野の専門家の紹介、簡易事実調査もレファレンス・サービスに含まれることから、これらについての知識も必要となる。しかし、以上のような知識やスキルだけでは十分ではない。例えば、問合の相手とそれらに答える人がおり、双方が呼応することによって成立する行為だからである。コミュニケーションが成り立たなければレファレンス・サービスは進まない。必要とされる資料・情報がないのに、問合の相手も受けてやらない雰囲気や環境もあるであろう。カウンターに座つても作業をしない、利用者は声をかけるのを躊躇するし、カウンターの椅子が一つだけあれば、自分が独占していいものか、悩んでしまうかもしれない。そのため、スタッフがフロアで作業をしているときに問合合わせをうけることも多いという。自分自身大いに自戒するとともに、十分な知識・スキルを身につけて自信をもつてレファレンスに対応できるように、そしてレファレンスを引き出せるよう、研鑽を積んでいきたい。読書の秋、大いに当館をご利用いただきたい。微笑んだスタンプが座つてい



### ご案内 労働図書館(資料センター)

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書97,000冊、洋書25,000冊、和洋の製本雑誌20,000冊を所蔵している労働関係の専門図書館です。労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。その他にも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(490種)、洋雑誌(220種)、紀要(500種)、組合機関誌・紙についても、受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、日本経団連など経営者団体の刊行物や民間研究団体刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特にILO(国際労働機関)総会の議事録やOECD(経済協力開発機構)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションは、戦前・戦後を通して労働組合の歴史的に貴重な原資料を収集、保管しています。

開館時間：9:30～17:00  
休館日：土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始(12月28日～1月4日)、その他  
電話番号：03(5991)5032 / FAX：03(5991)5659  
利用資格：どなたでも利用できます  
貸出：和書・洋書とも2週間、5冊までです  
※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください  
レファレンスサービス：図書資料の所在調査などのサービスを行っています